

歌に踊りに芸術作品も多数 松前町文化祭

11月2日と3日、町民総合センターで「第46回松前町文化祭」が開催されました。

展示部門では、書道、盆栽、俳句、刺繡など多数の作品が並び、舞台部門では、舞踊や民謡などが披露され、観客から大きな拍手が送られました。



今年は、レジンアクセサリー作り体験やミニ四駆体験、松前高校の生徒が商品開発をした、ほつけのすり身に、桜の葉を練りこんで作るかまぼこ、「ほかま」の販売などが行われたほか、落語家の桂三段独演会が行われるなど、来場された方は様々な催しを楽しんでいました。

今年で46回目となる松前町文化祭には、2日間で約1600名が来場し、多くの人が文化や芸術にふれ、盛況の中終了しました。

松前町から、いじめの根絶標語部門で、松前中学校の田中優さん（2年）と大島小学校の可香美瑠さん（2年）が表彰されました。

これは、いじめやネットトラブルの根絶にかかるメッセージを募集し、啓発活動などに活用することで、いじめの被害などから青少年を守るために社会全体の意識の醸成を図ることを目的に実施されています。

田中さんの作品は最優秀賞に選ばれ、「冗談のつもりで言つた言葉でも相手を傷つけてしまうことがある。そのようなことが少しでもなくなつてほしい」と話していました。

可香さんの作品は選ばれ、「冗談のつもりで言つたけど、いつも考えていたことだから標語はすぐに思いついた」と話していました。

いじめの根絶を願う標語で 子どもたちが表彰されました

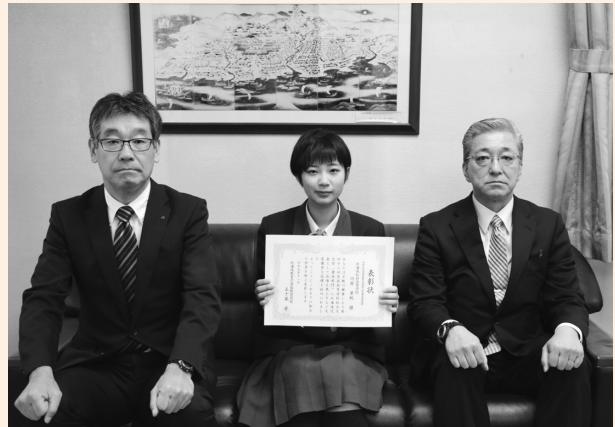
田中さんの作品
「冗談だ」
思っているのは自分だけ

だいじょうぶ？

だれでもできる 合言葉



まちの話題



川原高等専門学校書道部の川原里帆さん（3年）が渡島管内頑張る児童生徒表彰を受賞しました。

これは、日々の学校諸活動などで、特に頑張っている児童生徒の更なる意欲の向上を図るために、渡島教育局長から贈られているものです。

川原さんは、全国各地から選ばれた高校生が芸術文化を発表する全国高等学校総合文化祭の書道部門に北海道代表として出場するなど、優秀な成績が認められました。

後輩たちの模範に
松高書道部川原さんが表彰



安藤さんは、一書道展のイメージをつかむのが大変でした。作品は迫力がある中にも落ち書きを表現するために、線の太さや細さ、墨の量などに気を付けて書きました」と話していました。

安藤さんは、令和2年に高知県で開催される「第44回全国高等学校総合文化祭」に出場する予定です。

10月9日から10日まで旭川市で行われた「第53回全道高等学校書道展」に松前高等学校書道部の安藤麗さん（2年）が作品を展出し、全国高等学校総合文化祭の推薦候補者に選ばれました。

松高書道部の安藤さん
総文祭推薦候補者に



佐々木さん(左)と山本さん

チームは準決勝まで勝ち上がりつたものの、台風の影響により会期が延び、残念ながら棄権することとなりましたが、第3位に輝きました。

レベルの高い試合を経験し、今後のさらなる活躍と後輩たちへのアドバイスを期待しています。

北海道からは2人の所属するチームが出場し、東北からは19チー ムが出場しました。

10月12日から14日」に石手県で開催された「東北中学生KB野球大会」で活躍しました。

松前中学校3年の佐々木大斗さんと山本朔也さんが、渡島・函館選抜に選ばれて出場した「中学K-NB野球化毎道印事杯」で優勝。

松中の佐々木さん、山本さん
野球の渡島・函館選抜チームで活躍！



生徒たちは建物内の展示物や室内の掃除、落ち葉拾いなどを「行い、屋敷内をすみずみまできれいにしました。清掃を行った生徒は「少しでもきれいになればうれしいので頑張つて掃除しました」と語っていました。

「これは冬(季休館前)」、多くの観光客が来館した藩屋敷をねざり、きれいにすることと、生徒たちにより一層、愛着を持つてもらおうと、7年前から行われているものであります。

**1年間お疲れ様でした
藩屋敷をねぎらって**

松前森に恩返し 町内2カ所で植樹活動

11月6日、旧大島中学校付近を流れ大鷲津川河川敷で大島小学校の5、6年生や地元漁業者、漁協女性部など約20人が植樹を行いました。

これは、河川付近に植樹することで、海を豊かにすることを目的に、江良地域マリンビジョン推進協議会が主体となり毎年行っているもので、ミズナラなど3種類を合わせて90本植えました。

また、同日、上川地区皆伐跡地では、渡島西部森林室と株式会社菅原組の協力のもと、松前中学校の2年生が植樹を行いました。

これは、町有林のスギなどで建築された校舎へ恩返しの意味を込めて行われているもので、生徒たちは、公益財団法人似鳥文化財団の支援のもと、二トリザクラ（オヤマザクラ）など約260本を植えました。



生きているような獅子に驚き！ こども園と小学校で神楽を鑑賞

11月6日、松前認定こども園の子どもたちと松城小学校の4年生が、それぞれ松前神楽の演舞を鑑賞しました。

これは、松前神楽に親しんでもらおうと、渡島神道青年会の皆さんが披露してくださったもので、こども園では七五三の慰問として、松城小学校では、ふれさと学習の一環として行われました。

こども園では、はじめは子どもたちも舞を興味津々な様子で見ていましたが、獅子舞が現れると怖くて泣きだしてしまった子もいました。獅子舞を見ても泣かなかつた園児も「ちょっとだけ怖かった」と話していました。

松城小学校では、「獅子舞に噛まれるとなぜ魔除けになるのか」「衣装の色にはどういった意味があるのかなど」多くの質問が寄せられ、松前神楽に大変興味を持った様子でした。



松前の伝統に肌で触れる 高校生が杵振舞を体験

11月15日、松前高校の「松前学」の一環として、同校の1年生と、松前町でホームステイをしている留学生3人が江良杵振舞を体験しました。

これは、郷土の歴史や伝統に対する理解を深めるために行われたもので、生徒は江良八幡神社杵振舞保存会（代表・門脇静男）の皆さんから舞や楽器の演奏方法を学びました。

そのあとは、それぞれ舞や楽器の担当に分かれて練習を行い、最後は生徒による演奏と舞が披露されました。

杵振舞を体験した生徒は「杵振舞という名前は知っていたけど、実際に体験したことで、自分の住む町に伝統的なものがあることをあらためて実感した」と話していました。



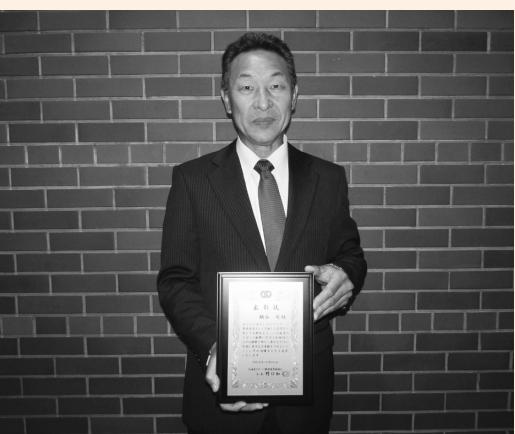
まちの話題

密漁禁止の看板を設置していただきました

松前町のスポーツ振興に寄与していただきました

こちそろさまでした！松中で学校給食試食会

本番さながら！緊迫した災害救助訓練



鍋谷さんは、平成20年から体育指導員やスポーツ推進委員として、積極的に地域のスポーツ振興のために協力や助言をしてください、また、マラソンや陸上などの指導者や審判としても活躍されました。

松前港内2カ所に密漁禁止の看板を設置していただいた株式会社菅原組（代表取締役・菅原修）に町長から感謝状が贈られました。町内では密漁が絶えず、漁業者も苦慮していますが、看板を設置していただきことにより、密漁の防止と水産資源の保全に貢献していただきました。

鍋谷さんは、平成20年から体育指導員やスポーツ推進委員として、積極的に地域のスポーツ振興のために協力や助言をしてください、また、マラソンや陸上などの指導者や審判としても活躍されました。

第61回北海道スポーツ推進委員研究協議会（北海道スポーツ推進委員協議会主催）で、松前町スポーツ推進委員の鍋谷司さん（上川）が長年の功績が認められ、スポーツ推進委員功労者として表彰されました。

11月5日、松前中学校で「学校給食町民試食会」が開催され、町民23人が参加しました。給食試食会では、参加した町民と3年△組の生徒たちがファンチルームに集まり、一緒に給食を味わいました。

試食会後のアンケートには、「野菜にひと手間（人参の型取りなど）を見つけて、うれしく思いました」、「子ども達と食べるのは楽しい。おいしく食べられた」などの感想が寄せられました。



※2月には各小学校でも、「町民試食会」を開催します。詳しくは町広報1月号でお知らせします。



救助の様子

実際に建物の壁をオノやノコギリで破壊し、救助に必要な空間を確保して救助活動を行うなど、本番さながらの訓練が行われました。

11月5日、旧小島駐在所（赤神）で、道警函館方面本部警備課と松前警察署、松前消防署が合同で災害救助訓練を行いました。

これは、「津波防災の日」である5日に合わせて実施され、相互の役割を確認し、連携や救助技術の向上などを目的に行われました。

訓練は、建物が倒壊し、中に要救助者が取り残された想定などで行われ、警察官が建物に向かって「誰かいたら声を出すか音を立ててください」と大声で呼びかけ、屋内から壁を叩く音を確認すると、「誰かいたら声を出すか音を立ててください」と大声で呼びかけ、実際に建物の壁をオノやノコギリ

で破壊し、救助に必要な空間を確保して救助活動を行うなど、本番さながらの訓練が行われました。